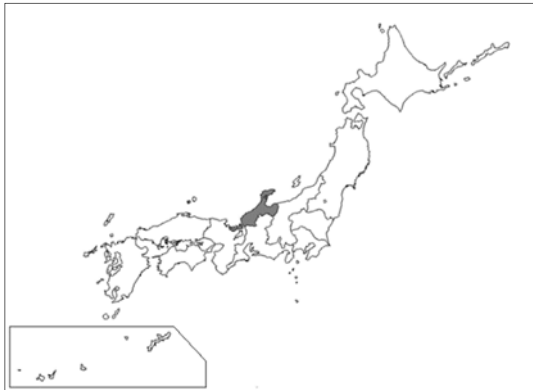


(7) 北 陸



北陸地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

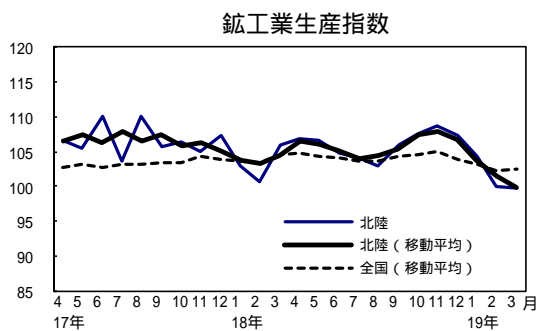
前回からの主要変更点

	前回 (平成 31 年 2 月)	今回 (令和元年 5 月)
景況判断	回復している	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調
鉱工業生産	高水準で推移	弱含み

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は弱含んでいる。

1 - 3 月期には、電子部品・デバイスは、スマートフォン向けが減少したことにより、減少した。化学は、医薬品が減少したことにより、減少した。生産用機械は、半導体製造装置が減少したことにより、減少した。金属製品は、増加した。繊維は、増加した。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
電子部品・デバイス	15.3	17.9	17.9	9.3	2.8	0.6
化学	14.0	9.7	4.6	7.3	16.2	5.5
生産用機械	11.8	5.6	9.8	8.8	9.2	6.6
金属製品	8.1	0.7	0.3	9.9	11.8	0.6
繊維	6.9	2.9	0.1	1.5	0.0	2.4
鉱工業	100.0	3.4	6.0	2.8	4.1	0.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1 - 3 月期、3月は速報値。

2. 個人消費の動向

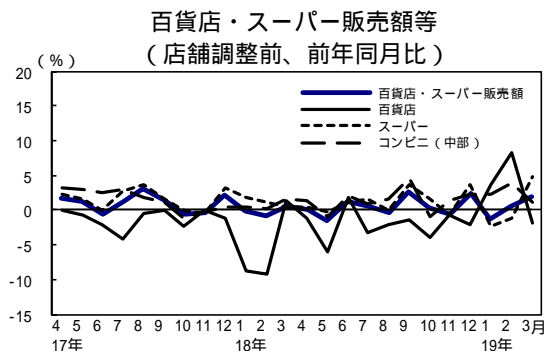
個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比1.6%減、2月は同0.4%増、3月は同0.3%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

1月は、前年の大雪の影響による反動もあったものの、スーパーが振るわず前年を下回った。2月は、前年の大雪の影響による反動に加え、気温の影響などから衣料品を中心に動きがみられ、前年を上回った。3月は、飲食料品が好調に推移し、前年を上回った。



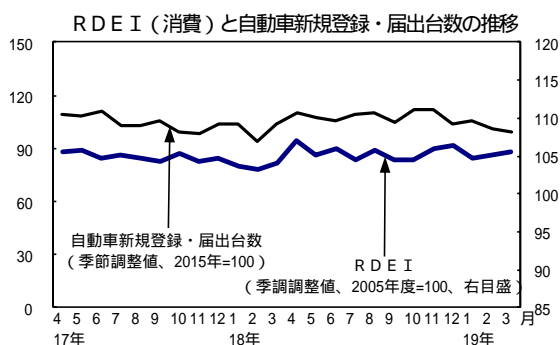
	2019年1-3月	2019年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.4	1.6	0.4	0.3
百貨店・スーパー(*2)	0.4	1.2	0.6	2.0
百貨店(*2)	2.9	3.7	8.2	1.9
スーパー(*2)	0.3	2.3	1.1	4.8
コンビニ(*2)	2.4	2.3	4.0	1.1
乗用車(*3)	2.8	1.3	6.8	8.4
(季節調整値)(*3)	8.2	1.7	0.4	4.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

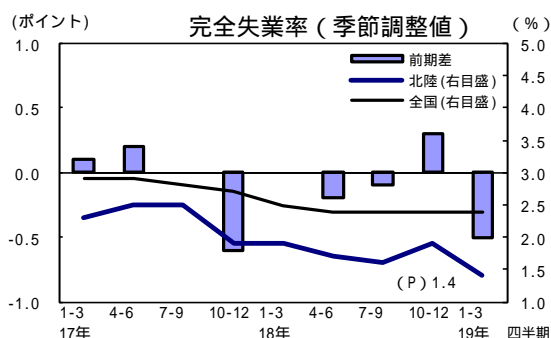
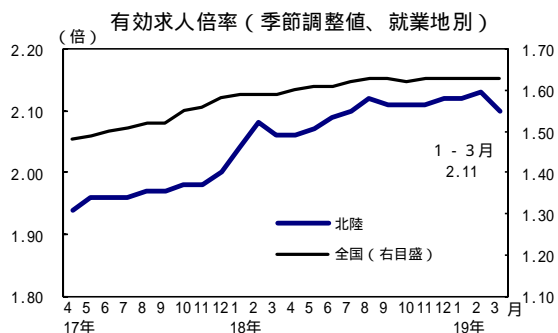
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 1. 内閣府にて算出、季節調整。

2. 1-3月期の値は暫定値。